

山形県の古木・名木 No.45

念仏の松 (ねんぶつのまつ)

最上郡舟形町長沢字長尾 裏手山

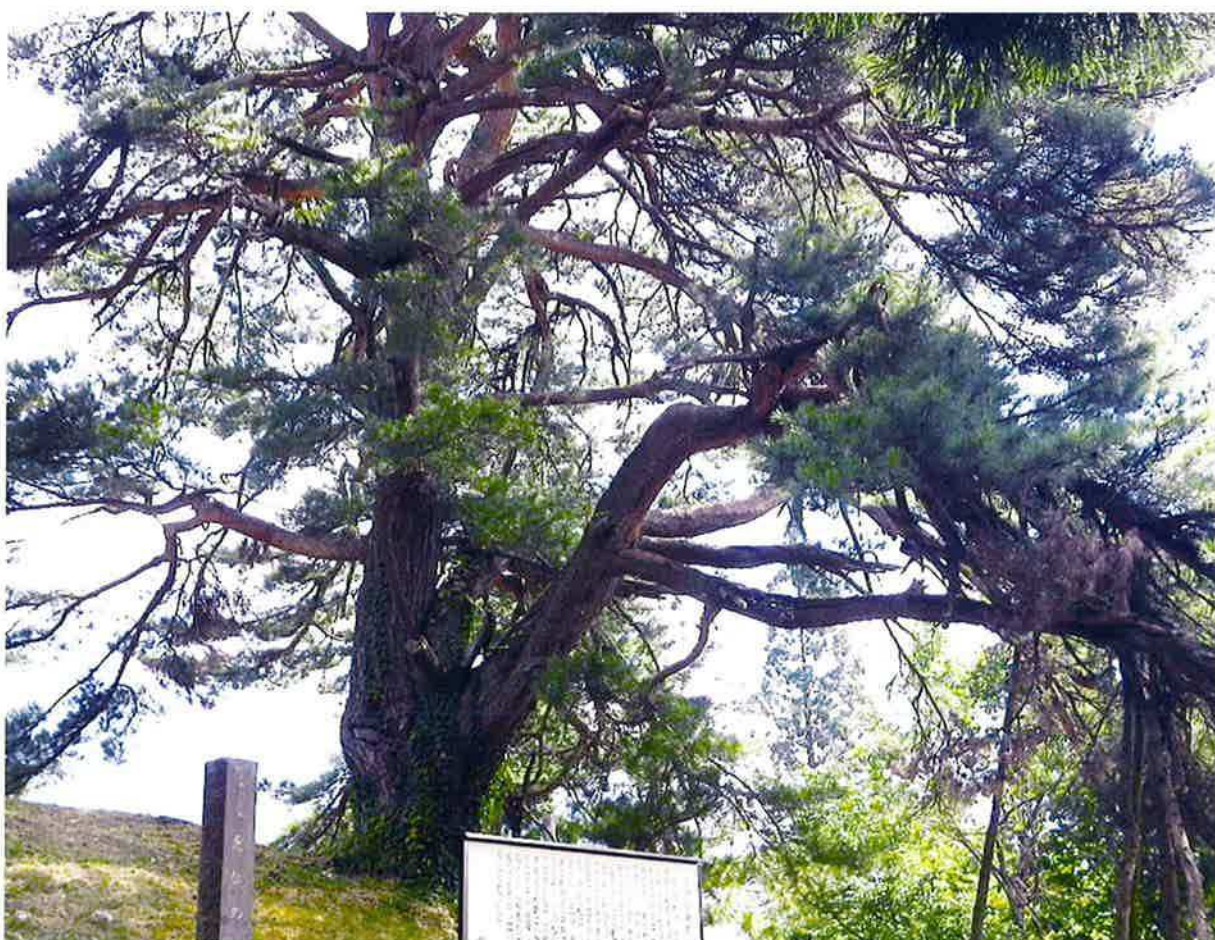
平成4年亀割バイパス開通によって分断された旧瀬見街道、長尾集落裏手に、念仏の松がある。根元の囲り4m、樹高約15mのアカマツで、この大きさからかなりの年数を経ていることがわかるが、樹齢は五百年弱との推定もある。

昔、出羽三山参りで宮城、岩手方面から訪れる道者達は、この松の下に来て初めて、霊峰月山を仰ぎ、思わず念仏を唱えたといわれる。

平成10年4月24日、舟形町指定天然記念物に指定されている。

〔山形県みどり推進機構〕

(案内略図)



天然記念物 念仏の松

念仏の松は、古来より出羽三山参詣の道者達が新庄峠を渡り、この松の下で三山の方向に向って念仏を唱えたことから知られるようになったものである。最上郡から新庄へ入る道は舟形町、新庄峠、鳥羽峠、内山峠であった。舟形町は、公的な道として利用されたが、下流も通った。又鳥羽峠は、新庄市に属するが、鳥羽山を越えるには、舟形町と新庄市との境界にあり、舟形町に属する山道であった。これらの中で新庄峠は、新庄市に属する山道であった。念仏の松は、この道の側にある。然し慶永三年(一八五〇)瀬見村に新庄大入道が、新庄峠の開通を命じられた際に、新庄峠を渡り、この松の傍を通らなくなった。かつて道者達は、旧新庄峠を渡り新庄へ入って、本台海が舟形山を、古口を経て角川口より田代三入を、念仏の松は、新庄市四ノ丁にあり、樹齢約五百年経たぬと小田川の絶壁に立ち今も新庄参詣の姿をみせる。

舟形町教育委員会

〔森林やまがた69号(2002年12月)記載〕